



写真右上/子どもと一緒に網をのぞき込む会員。小さな生物が入っていた 右下/講師の解説を受ける参加者。これから始まる調査に期待がふくらむ 左上/楽しそうな子どもたち。みんな表情がいきいきしている 左下/採取された沢ガニ。いろんな生き物がたくさん見つかり、ここはきれいな川であることが証明された。

瀬平けっこにせつ会は農業者、自治会、手づくりふるさと推進委員会などで構成される組織
同会では、農地や農業用水保全などの主となる活動のほかにも、「子どもたちに地域の良さを見直して欲しい」という目的で学校教育との連携を図り、異世代間の交流にも力を入れている地域環境保全の心を伝えることも、本事業の役割の一つだ

次代に伝える 地域保全の精神

小学校の環境学習に協力

中川根南部小では昨年7月15日、境川の水质を調べる環境学習を実施した。参加者は当時の3・4年生26人。水棲生物の生息状況を調査することで、水質や河川環境の実態を把握するのが狙い。
この学習に協力したのが瀬平けっこにせつ会の会員たちだ。自然に詳しい鈴木正文さん(梅高)を講師として紹介し、調査場所の選定にも協力した。
会員たちは、昔この川で遊んだプロ中のプロばかり。はだして川に入って遊ぶ経験に乏しい今の子どもたちにとって、最高の先生でもある。

川は水棲生物の宝庫だった

川の中ほどにある石の裏側をのぞいていた子が会員と一緒に第一声を上げた。「何か虫がいた!」。子どもたちが一斉に集まる。鈴木正文さんの説明によると、カワゲラという虫のようだ。
それを合図にしたように、ほうほうに散った子どもたちから、次々に歓声が上がってきた。水生昆虫や沢ガニ、小さな魚などが次々に見つかり始めたのだ。黒い色をした体長3センチのミミズのような虫がいた。ヤゴと呼ばれるトンボの幼虫も見つかった。会員のアドバイスで、川縁の草の中に網を差し入れた女の子から「どじょうがいた!」「魚がいた!」と大きな声が聞こえてきた。
川の表面だけ見れば、とても魚がいるように見えないこの小さな川。実は、水棲生物の宝庫だった。

実地の学習には地域の力を 学習後にも効果は続く

引率していた先生に話を聞いた。「中川根南部小では学校の方針として、地域の自然を学ぶ『環境学習』

に力を入れています。実際に川に入り、多様な生物に触れる。そしてその生息状況から、川の水質を知る。素晴らしい題材だと思います。今回、地域の人たちに協力していただき、共に学ぶことができたのも貴重な経験でした。この場で地域の人々と触れ合うことで、別の機会に出会っても、気軽にあいさつできるようなるなど、別の効果も期待できます。学校としては、教室で学ぶ教科も、こういった地域に向いて学ぶ体験学習も重要だと考えます。校内と校外の活動すべてが繋がった総合的な『学び』を進めるためには、地域の方々のご協力は欠かせないものではないです。

子どもが地域の良さを見直す

約1時間の採取を終えた子どもたち



活動に参加した会員に聞いた
藤田幸男さん

こういった体験学習を通して子どもたちがその良さを見直し、地元を好きになってくれたらうれしい

わたしたちが子どものころ、この川がよく遊んだものです。そのころは、もっと川が広くて深かった。青々と澄んでいました。あまごやうなぎなど川魚も豊富で、朝や夕方、よく捕まえにきました。今では、川は小さくなりましたし、わたしたちも普段、川に入る機会というのはそうそうありません。今回は子どもたちと一緒に、わたしたちも楽しんでいるという感じです。こういった体験を通して、子どもたちが地元の良さを見直し、地元をさらに好きになってくれたらうれしいですね。



まだ少し水が冷たい季節。それでも大人も子どもも一緒になって川に入り、楽しそうに調査を続けていた。学校の教室とはひと味違う授業は、子どもたちの好奇心を刺激し、地域への愛着心もはぐくんできた。